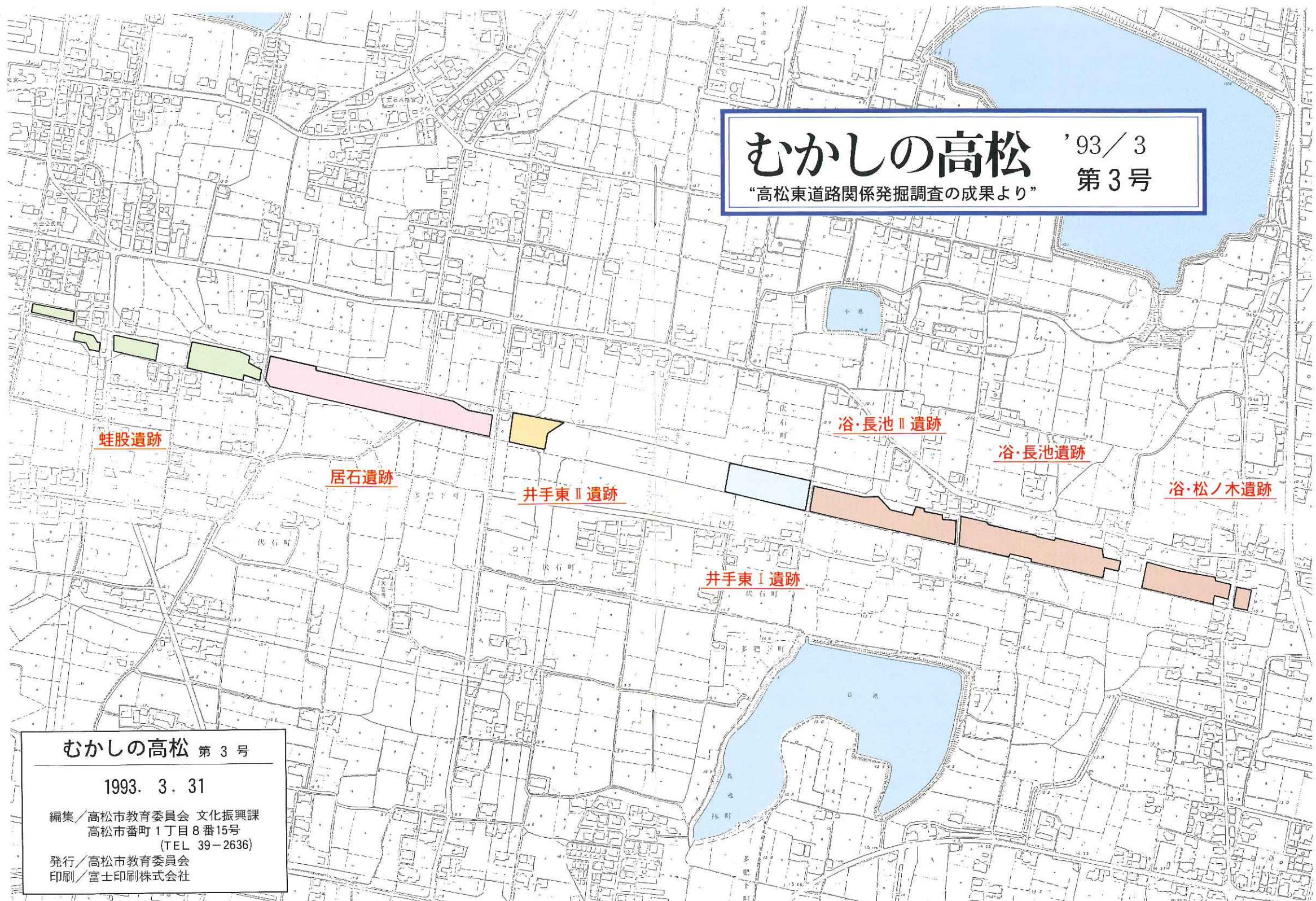


むかしの高松

'93/3
第3号

“高松東道路関係発掘調査の成果より”



蛙股遺跡

居石遺跡

井手東Ⅱ遺跡

井手東Ⅰ遺跡

浴・長池Ⅱ遺跡

浴・長池遺跡

浴・松ノ木遺跡

むかしの高松 第3号

1993. 3. 31

編集/高松市教育委員会 文化振興課
高松市番町1丁目8番15号
(TEL 39-2636)

発行/高松市教育委員会
印刷/富士印刷株式会社

はじめに

足かけ4年にわたって行ってきました高松東道路関連の発掘調査も9月末に蛙股遺跡^{かえるまた}の調査を最後に現地での作業を終了し、現在は、調査によって得られた膨大な成果を整理している最中です。これらの膨大な資料を整理するには、これまた膨大な時間と労力がかかり結果の早急な公表ができない状況にあります。このような状況のなかで、高松市が行った発掘調査の成果の一部を知ってもらうために、パンフレットを作製しました。創刊号では高松東道路関連の東半部の3遺跡について紹介しましたが、今回の号では残りの西半部の4遺跡（井手東Ⅰ遺跡、井手東Ⅱ遺跡、居石遺跡、蛙股遺跡^{かえるまた}）^{おりいし}について紹介します。これらのパンフレットにより埋蔵文化財についての知識を深めてもらいたいと考えております。

井手東Ⅰ遺跡



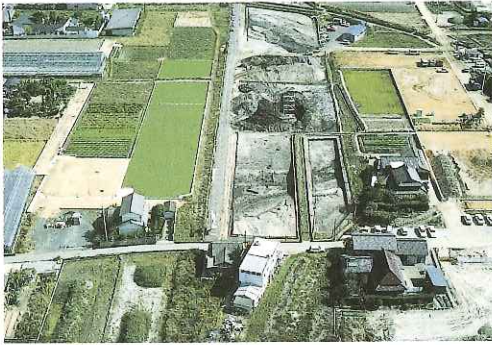
平成3年3月から10月まで調査を行い縄文時代から江戸時代の遺構、遺物を確認しました。縄文時代では、現地表面下0.5mのところ約6400年前に屋久島の西、鬼界島で噴出し、偏西風によって降灰したアカホヤ火山灰の堆積を確認しました。弥生時代では、約2000年前頃と考えられる溝から多量の土器の他、多量の木器が確認されました。鍬や鋤^{くわ すき}、堅杵^{たてぎね}等の農耕具の他、祭に使われたと考えられる琴も確認されました。江戸時代のものとして溝、土坑が確認されました。多数確認された土坑は、どうも墓であるらしく人骨と考えられる骨片の他、貨銭や陶磁器の破片がみつかっています。

井手東Ⅱ遺跡



平成3年1月から2月、5月から6月まで調査を行い縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての溝状遺構、江戸時代の土坑等を確認しました。溝状遺構からは縄文時代晩期から弥生時代前期の土器の他、結晶片岩製の石棒も確認されました。

居石遺跡



平成3年6月から平成4年2月まで調査を行い縄文時代晩期から江戸時代にかけての遺構を確認しました。縄文時代晩期では、調査地の東端から確認された自然河川があります。ここからは縄文晩期の土器の他、石器では石鍬と考えられる打製石斧、スクレイパーなどが確認され、木製品では加工途中の石斧の柄が確認でき、加工方法の順序がわかる好例となりました。古墳

時代の始めの頃の遺物には、水に対する祭の跡として自然河川から同時に出土した日本製の鏡である仿製鏡3面があります。いずれも鏡も保存状態が良好な形で確認されました。

蛙股遺跡



平成3年12月から平成4年3月、平成4年7月から9月にかけて都合4地区に分けて調査を行い、弥生時代から江戸時代にかけての遺構を確認しました。弥生時代では調査区の西端から自然河川及び墓と農業用の用水路と考えられる溝状遺構を確認しました。奈良から平安時代にかけては、畑の畝と考えられる遺構が確認され、その下からは道状遺構と考えられる畦とそれに

付随すると考えられる溝状遺構が確認されました。江戸時代では居石遺跡2号塚と呼ばれている塚の下からは集石墓（石を積みあげた墓）が確認され、当地域の墓のあり方の一端を知ることができました。

(1)井手東 I 遺跡

写真1



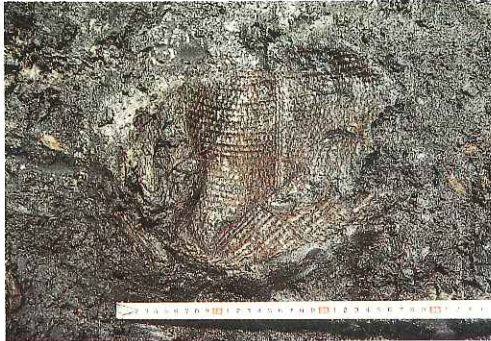
中央部を曲がりくねって走る溝(SD101)と直交する溝(SD06)から多くの土器とともに木製の遺物が出土しました。

写真2



鋤先です。中央部の2つの穴に紐を通し、柄を固定します。

写真5



把手付きの編籠あみかごです。植物の丈夫な繊維を使って、丁寧に編んでいます。

写真6



握り部で二つに割れたたぐき竪杵たぐきです。ほぼ完全な形で出土しました。

写真9



白く帯状に見えるのが火山灰です。約6400年前に九州の南、鬼界島から降灰しました。

写真10



円形に散らばって見えるのは、江戸時代の墓のようです。

写真3



中央部右寄りの二等辺三角形の板が琴です。四国では初の出土で、ほぼ完全な状態で出土しました。周辺には、造りかけの道具も見られます。

写真4



木製の遺物とともに出土した壺の口の部分です。外面には文様も見られます。

写真7



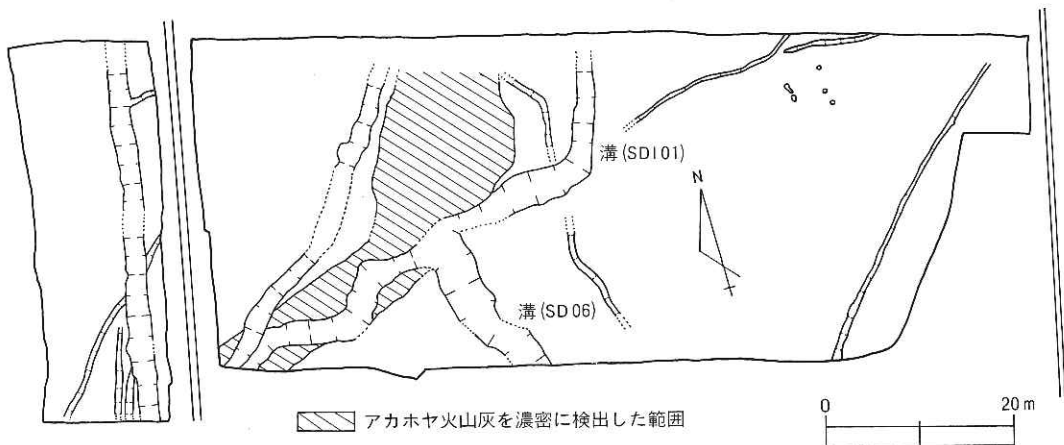
直径15cm程度の小型の臼です。小型ですが、形もしっかりした実用品です。

写真8



把手付き片口の容器です。内外面とも漆を塗り、保水性を高めたものです。

井手東Ⅰ遺跡遺構配置図



(2)居石遺跡

写真1、2



調査区西端で確認した幅25m、深さ2mの川の跡です。約1700年前頃に流れていたものです。その頃の洪水の影響で、ほとんどその時期に埋まってしまうようです。

写真3



3区で確認した南西から北東に向けて流れる約1700年頃の川の跡です。

写真4



4区で確認した約2400年前の川の跡です。縄文時代晩期の土器、石器、木器が出土しています。

写真5



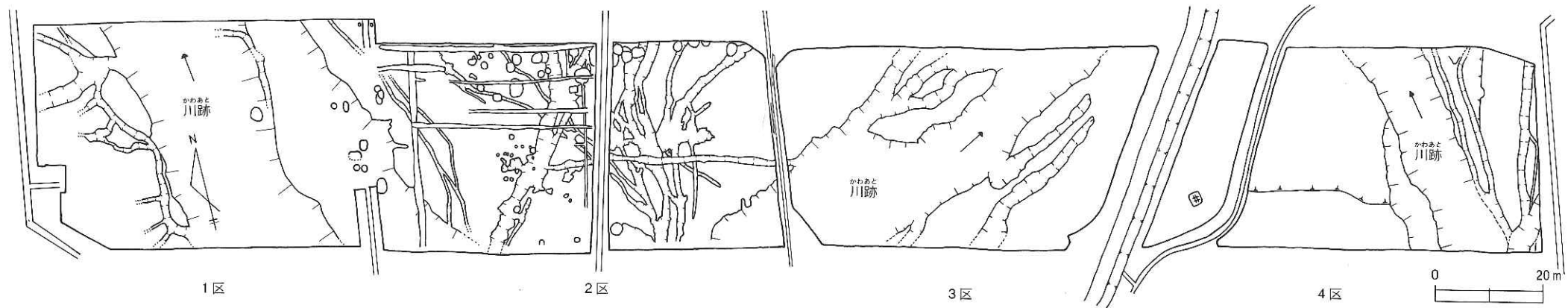
写真1の川の底から出土した日本製の鏡です。約1700年頃のものと考えられます。これらの鏡は大きなもので5.4cm、小さなもので2.8cmと小さな為、実用品ではなく川の岸辺で行う祭りに使われたものと考えられます。

写真6、7、8



写真1の川の跡から出土したもので、いずれの土器も約1700年頃のものと考えられます。

居石遺跡遺構配置図



(3) 蛙股遺跡

写真1



調査区西端で確認された川の跡です。西岸の溝は、農業用の水路です。

写真2



写真1の川が埋まった後につくられた、土器を利用した墓です。

写真3



奈良から平安時代にかけての畑の跡です。畝と溝は、同じ間隔で並んでいます。

写真4



写真3の畑と同じ時代の道と考えられます。畑の間のあぜ道でしょうか。

蛙股遺跡遺構配置図(1)

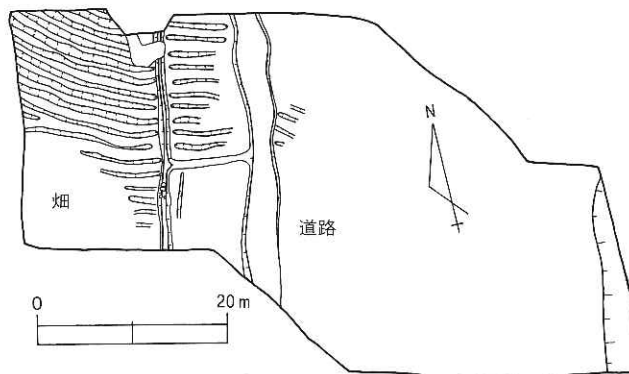


写真5



写真1の川の跡で見つかった動物の足跡です。

写真6



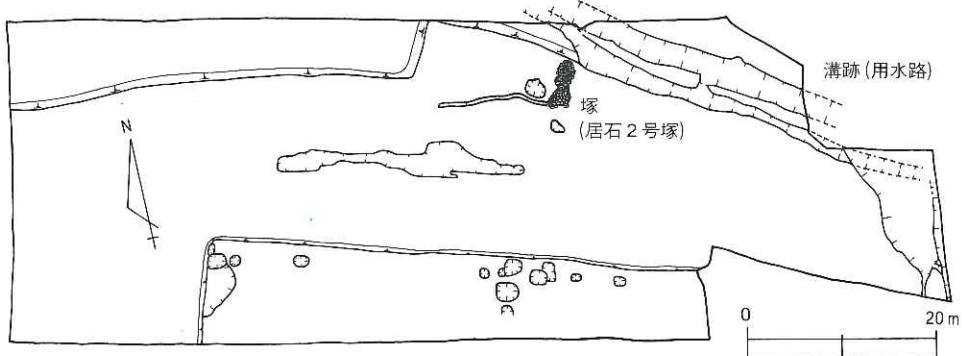
調査区東端で確認された約1800年前頃の溝です。農業用の水路と考えられます。



写真7、8

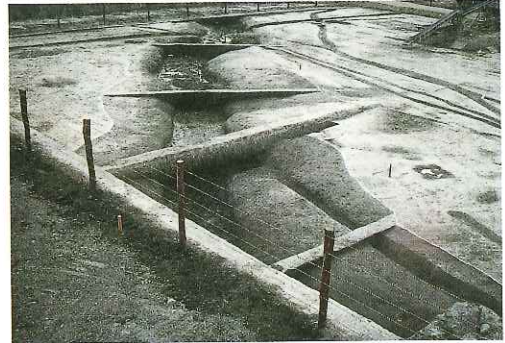
調査区東端で確認された江戸時代の石積みの墓です。石を取り去ると骨も確認されました。

蛙股遺跡遺構配置図(2)



(4)井手東Ⅱ遺跡

写真1、2



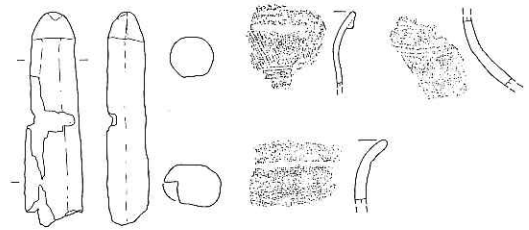
調査区を南西から北東に流れる溝です。溝幅は広いところで10m、深さ0.8mありました。溝内からは約2300年前頃の土器が出土しています。農業用の水路だったのかもしれませんが。

写真3



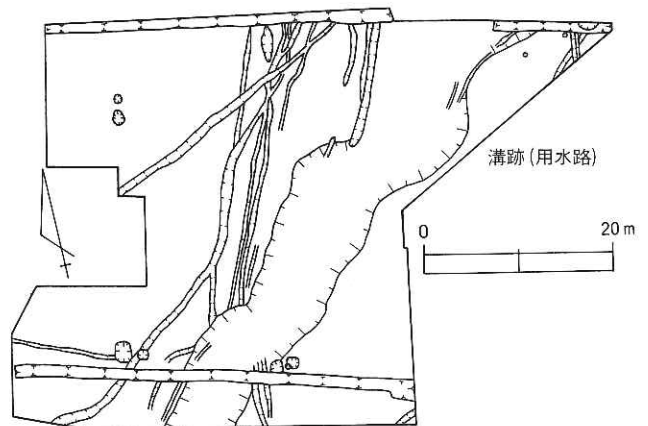
前述の溝から出土した石棒です。結晶片岩を利用してつくられたもので、石材は阿讃山脈を越えて徳島県側から持ち込まれたようです。

図1



井手東Ⅱ遺跡からは、これらの土器や石器が出土していますが、遺物の出土した量が少なく全体をうかがえるものではありません。

井手東Ⅱ遺跡遺構配置図





遺物紹介

左の写真の木製品は、^{さこ}浴・^{ながいけ}長池遺跡の川の跡から出土しました^{すき}鋤状木製品です。刃先が壊れていますが、全長76.2cmの長さを持ち、一見するとスプーンのような形をしています。同時に出土した土器から縄文時代晩期から弥生前期（約2300年前）頃のものと考えられます。ちょうどこの頃は、四国に稲作が伝わる時代で、ひょっとするとこの道具も稲作に利用されていたのかもしれませんが。同じような形のもの、^{はやし}林・^{ぼうじろ}坊城遺跡でも出土しています。実物は、昭和町の歴史資料館に展示しています。

おわりに

創刊号で紹介できなかった西半部の遺跡について紹介しましたが、いかがでしたでしょうか。多くの成果の中から、注目すべきもののみを取り上げましたが、現地調査が昨年の9月末に終了し、引き続き整理作業を行っていますが、大半は未整理のままです。整理作業が進んでいく段階で、判明していくことも多いと思います。現に整理作業が終了した浴・長池遺跡でも新たにわかってきたことも多くありました。その成果は次号で詳しく説明していきたいと考えております。何がでるか楽しみにしてください。

最後になりましたが、パンフレット等についてご意見ご希望等ありましたら市役所11F教育委員会文化部文化振興課(TEL39-2636)までお願いします。